２　八坂小中学校　学校経営の具体

（１）はじめに（小中一貫教育の経緯とねらい）

「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」一部抜粋　　H28.12.26　文部科学省

・・・平成２７年６月通常国会で、９年間の義務教育を一貫して行う新たな学校の種類である「義務教育学校」の設置を可能とする改正学校教育法が成立し、平成２８年４月１日より施行されました。

それにより、小学校と中学校が別々の組織として設置されていたことに起因していた様々な実施上の課題が解消され、教育主体・教育活動・学校マネジメントの一貫性を確保した取組が容易になるなど、全ての教職員が義務教育９年間に責任を持って教育活動を行う小中一貫教育の取組を継続的・安定的に実施できる制度的基盤が整備されました。

小学校と中学校は、児童生徒の発達段階に応じて教育活動が異なるため、指導体制や方法などの様々な違いが、学校の文化として積み上げられてきました。このため、単に小学校と中学校を組織として一緒にするだけでは成果を上げることはできません。大切なことは、義務教育９年間を連続した教育課程として捉え、児童生徒・学校・地域の実情等を踏まえた具体的な取組内容の質を高めることであります。・・・

（２）学校経営の重点

２１世紀の教育では、自ら「問い」を発する力が学力の中核となります。なぜなら唯一絶対の正解が用意されていないこれからの時代を生きていくためには、自ら「問い」を持ち、他者と協働しながら「最適解」「納得解」を得る力が必要だからです。

そのため、八坂小中学校では、学校教育目標を「『問い』をもって学ぶ八坂の子」とし、その具現に向け、以下を重点に取組みます。

重点１　学びづくり

児童生徒にとって魅力的な学習問題を据え、子どもの問いを大切にして探究することにより、学び合いを軸とする授業づくりを目指します。その際、ＩＣＴを有効に活用することで、問いに対する友の見方や考えをリアルタイムで共有したり、自分の考えを蓄積し振り返って評価したりする等、学び合いを推進するためのツールとして使いこなすことを目指します。

重点２　関係づくり

前期課程（１～６年）と後期課程（７年～９年）の児童生徒がそれぞれの校舎で学ぶ、施設分離型の良さを生かし、責任感や自己有用感を育てながら、小中合同行事や縦割り班活動を通して、深く信頼し合う人間関係の構築を目指します。児童会と生徒会の連携にオンライン会議を活用する等、施設分離型から生じる「ICT 活用の必要性」を利点ととらえて関係づくりに取組みます。

重点３　教育システムづくり

① 学習システムづくり

ＩＣＴ有効活用による学び合いの質的向上を教育課題とし、教育課程を前期課程と後期課程で編成する。５年生以降の学習指導は教科担任制で行い、後期課程では複数担任により、生徒一人ひとりの特性に対応する指導を行います。

② 協働システムづくり

学校運営協議会との協働により「地域に開かれた教育課程」を編成し、地域と共に生きる八坂の子どもを育成します。

③ 研修システムづくり

教職員が少人数で個別の課題に基づく授業を参観し語り合うことを通して、授業力の向上を図ります。　※「真正の学び研修」「ＩＣＴ研修」「ＹＰＵ」等

（３）特色ある教育活動

□少人数構成の学級を基盤に、全ての子どもに学ぶ権利を保障します。

□山村留学発祥の地の伝統と今日までの取組みを大切に継続します。また小規模特認校制度も生かし、多様な他者理解の大切さが学べる学校とします。

□義務教育９年間を心身と学びの発達に着目して、前期（１年～６年）・後期（７年～９年）に区分し、２つの課程で構成する小中一貫教育を実施します。

□前期・後期相互乗り入れ授業を行います。前期課程では一部教科担任制。後期課程では教科担任制とします。そのために小中兼務を行います（小学校→中学校は美術、　中学校→小学校は、音楽・理科・英語）。また兼務以外にも小中双方の授業支援を充実します（家庭科・体育・特別支援教育等）。

□小学校５・６年生は中学校で「学びの合宿」を実施し、小中のギャップを無くします。

□前期校舎と後期校舎が離れている施設分離型の良さを生かした小中一貫教育を目指します。

□ＩＣＴの有効性を最大限発揮できる学校運営を目指します。授業づくりにおいては学び合いのためのツールとして、集団づくりにおいては施設分離型の連携を高めるためのツールとして活用します。前期課程においては、「プログラミング学習」を中心に論理的思考と機器活用の技能を高めます。

□生活科と総合的な学習の時間を核とする教科横断型カリキュラムを作成し「学び合いの里　八坂」の豊な人材や伝統・文化・自然環境に体験的に学びます。

□学校運営協議会で学校運営の方針を理解していただいた上で、地域学校協働本部による学習支援ボランティアの皆様には、今後もより良い授業づくりへの支援をいただきます。

□質の高い「学び合い」による授業の具現として、問題解決的な学習を仕組んだり少人数の良さを生かした「思考ツール」を活用したりしながら思考力を高め、社会との関係を明らかにさせていきます。「学び合い」の質の向上のために、村瀬公胤先生（麻布教育研究所所長）をお招きした研修会も継続します。

□少人数の良さを生かし、手作り給食を提供してくれる八坂共同調理所の活動と食育の取組を今後も大切にし、健康で安全な生活をするための自己管理ができる子の育成を目指します。

□すでに実績を積んでいる小中合同ＰＴＡの活動を今後も充実します。

□「キャリアパスポート」を活用し、「将来の自分を見通す」「現在の自分を評価し振り返る」活動を連続的に行うことにより、自己有用感を高めます。

※「ＩＴ」・・・・「情報技術」（Information Technology の略）

「ＩＣＴ」・・・「情報伝達技術」（Information and Communication Technology の略）

ＩＴがハードディスクやインフラなどのコンピューター関連の技術そのものを指すのに対し、ＩＣＴは、技術の活用方法等も指す。教育では、ＩＴよりも通信によるコミュニケーションの重要性が強調されるＩＣＴが多く使われる。